

令和 5 年度北陸ブロック麦の生産・販売に 係る意見交換会概要

北陸農政局生産部生産振興課
(令和 5 年 6 月 2 7 日 (火) 開催)

麦の生産・販売に係る意見交換会概要①

- 北陸地域では、六条大麦の主産地として、需要に応じた生産の継続が希求される一方、増産の求めがある小麦の生産は振るわない。これらの課題に取り組むため、今回、各県担当及び全農・実需者等との意見交換を行った。

●北陸で小麦の生産を拡大するにあたり実需が望むこと

- ・北陸産・地場産の小麦を扱いたい事業者は一定数存在することなどを踏まえ、
 - ①品種本来が持つ品質の高位安定化
 - ②産年・産地に由来する品質のブレの解消
 - ③パン用に適した、例えば「ゆきちから」以上の品種の採択あるいは開発が望まれる。

●大麦の需要に応じた生産拡大のために実需が産地に望むこと

- ・産地・生産者等に由来するタンパク質のブレの解消、白度の安定化、硝子質の低下。
- ・商品特性に応じ、例えば、健康機能面でβグルカンが多いこと、麦特有の香り・酸味が少ないことなど。
- ・一定の需要がある麦茶向けについては、高タンパク（10.5%以上）の大麦が望ましい。
- ・生産に際し、うるち性大麦を減らしてもち性大麦を増産する、またはその逆をするのではなく、両方同時に拡大すること。

麦の生産・販売に係る意見交換会概要②

●小麦新品種の特性や北陸適性品種の検討状況について

- ・「ゆめかおり」は早生品種であり、赤かび病耐性はそれなりに強い。ただし、大麦に比べ成熟期は一定程度遅い。
- ・「夏黄金」は「ゆきちから」に比べ成熟期が数日早い。赤かび病耐性はゆきちからに比べ少し強い。
- ・品種比較等により各県で「ゆきちから」、「夏黄金」等の適性を検証中。

●各県とも保管庫不足が生産拡大の共通課題

- ・県内保管庫の不足により、県外保管庫の確保・活用（輸送費、保管料の経費が増加）に傾注せざるを得ず、生産拡大にも影響。

●まとめ、今後の対応

- ・六条大麦については、引き続き主産地の優位性を活かすため需要に応じた生産を維持・拡大しつつ、他の大麦の生産拡大を模索する。他方、全国的な増産が求められる小麦の生産振興を図る。
- ・関係者を網羅的に参集した北陸麦サロンの開催（1月予定、WEB等）。
- ・麦生産に係る技術・取組事例等の情報発信。